

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: 細菌性赤痢 5 例 (感染地域: 大阪府 2 例、ベトナム 1 例、ネパール 1 例、エジプト 1 例)、腸チフス 2 例 (インド 1 例、疑似症 1 例)
- 3 類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 35 例 (うち有症者 27 例、HUS 2 例) [感染地域: 国内 34 例、ブラジル 1 例 国内の多い感染地: 兵庫県 (4 例)、北海道 (3 例)、静岡県 (3 例)、岡山県 (3 例) 年齢群: 10 歳未満 (13 例)、10 代 (1 例)、20 代 (10 例)、30 代 (3 例)、40 代 (1 例)、50 代 (6 例)、60 代 (1 例) 血清型: 毒素型: O157 VT1・VT2 (12 例)、O157 VT2 (12 例)、O157 VT 不明 (3 例)、O26 VT1 (3 例)、O91 VT1 (1 例)、O121 VT2 (1 例)、その他/不明 (3 例)]
- 4 類感染症: E 型肝炎 1 例 (感染地域: 愛知県、感染源: 豚生肉・生レバー)、つが虫病 15 例 (感染地域: 神奈川県 4 例、福島県 3 例、岐阜県 3 例、青森県 1 例、秋田県 1 例、山形県 1 例、千葉県 1 例、佐賀県 1 例)、日本紅斑熱 1 例 (感染地域: 和歌山県)、レジオネラ症 4 例 (病型: 肺炎型 3 例、ポンティアック型 1 例) [年齢群: 10 代 1 例、40 代 1 例、60 代 1 例、70 代 1 例 感染地域: 京都府 2 例 (うち 1 例は大衆浴場)、群馬県 1 例、新潟県 1 例)、レプトスピラ症 3 例 (感染地域: 新潟県 2 例、宮崎県 1 例)
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 8 例 (腸管アメーバ症 6 例、腸管外アメーバ症 2 例) [感染地域: 国内 3 例、インドネシア 2 例、スイス 1 例、不明 2 例 感染経路: 経口 5 例、不明 3 例]、ウイルス性肝炎 7 例 [B 型 6 例 (感染経路: 性的接触 5 例 (異性間 3 例、不明 2 例)、不明 1 例)、C 型 1 例 (感染経路: 不明)]、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例 (ともに孤発性プリオン病古典型)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例 (血清群: A 群、60 代)、後天性免疫不全症候群 12 例 (無症候 10 例、AIDS 2 例) [感染地域: 国内 10 例、国外 2 例 (ミャンマー 1 例、不明 1 例) 感染経路: 性的接触 10 例 (異性間 1 例、同性間 8 例、異性間/同性間 1 例)、血液製剤/性的接触 1 例、不明 1 例]、ジアルジア症 1 例 (感染地域: 国内)、梅毒 6 例 (早期顕症 I 期 2 例、早期顕症 II 期 2 例、無症候 2 例)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例 (遺伝子型: VanA 1 例、菌検出検体: 血液、便、遺伝子型: VanC 1 例、菌検出検体: 血液)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県 (0.21)、広島県 (0.12)、宮崎県 (0.12)、鳥取県 (0.07) が多い。

小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 302 例の報告があり、報告数は増加した。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の 75% を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 42 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期 (前週、当該週、後週) と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では三重県 (0.93)、石川県 (0.90)、長野県 (0.87) が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第 42 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では鳥取県 (4.2)、北海道 (3.2)、大分県 (2.8) が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第 39 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では大分県 (22.2)、宮崎県 (22.2)、岡山県 (20.4)、佐賀県 (19.8) が多い。水痘の定点当たり報告数は 3 週連続して増加した。都道府県別では宮城県 (2.3)、宮崎県 (2.2)、福井県 (2.2)、北海道 (2.2) が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 42 週以降、減少が続いている。都道府県別では山形県 (3.1)、長野県 (1.6)、秋田県 (1.3) が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第 40 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では宮城県 (0.70)、愛媛県 (0.65)、埼玉県 (0.64) が多い。百日咳の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では栃木県 (0.09)、福井県 (0.09)、沖縄県 (0.09)、千葉県 (0.08) が多い。風しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では、宮城県 (0.02)、群馬県 (0.02)、茨城県 (0.01)、埼玉県 (0.01)、千葉県 (0.01) から各 1 例ずつの報告であった。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では宮城県 (0.52)、岩手県 (0.18)、熊本県 (0.15)、沖縄県 (0.15) が多い。麻しんの定点当たり報告数は増加した。都道府県別では、沖縄県 0.06 (2 例)、愛知県 0.05 (9 例)、茨城県 0.01 (1 例)、東京都 0.01 (1 例) の報告であった。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では新潟県 (3.5)、長野県 (2.5)、鳥根県 (2.2) が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では埼玉県 (3.2)、沖縄県 (2.4)、大阪府 (2.4) が多い。

	小児科定点											眼科定点		基幹定点								
	インフルエンザ	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																						
愛媛県	.1	.1	1.7	8.2	.9	.7	.6	1.0			.0	.4		3.1				2.2				
近畿圏	香川県	.2	.1	.3	9.3	.6	.0	.3	.6			.5		.7								
	徳島県	.2	.1	.6	8.2	.6	.4	.2	.6			1.3		.5								
	高知県	.2	.2	2.4	5.5	.6	.2	.5	.5			1.4		1.7				.1	.1			
全国	.0	.1	.3	11.2	1.1	.6	.3	.6	.0	.0	.1	.0	1.0	.8	.8	.0	.0	.7	.0			
北海道	.0	.2	.8	3.2	3.7	2.2	.9	.3	.4		.0	.0	1.8	.8	.8			.1				
東北	.0	.1	.4	1.6	6.5	1.8	.9	.4	.6		.0	.2	1.2	.0	1.3	.0		.8				
関東	.0	.1	.2	1.5	9.0	1.1	.8	.4	.6	.0	.0	.1	.0	.7	.0	.9		.0	1.1	.1		
甲信越北陸	.0	.0	.6	1.8	8.3	1.2	1.1	.3	.6	.0	.0	.0	1.8	.0	.6			.0	.6	.0		
東海	.0	.0	.3	1.2	13.9	.8	.3	.4	.6	.0	.0	.0	.9	.3	.0	.0	.0	.0	.6			
近畿	.0	.1	.3	1.2	14.4	1.0	.5	.3	.6	.0	.0	.0	1.0	.0	.6	.0	.1	.7				
中国四国	.0	.2	.3	1.5	13.1	.7	.3	.3	.6	.0	.0	.0	.8	.0	1.0	.0	.0	.4				
九州沖縄	.0	.2	.3	1.5	15.1	1.1	.6	.1	.7	.0	.1	.0	1.0	.1	.9	.0	.0	.5	.0			

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病は除く。 (11月16日集計) 愛媛県基幹感染症情報センター

全国 全数把握感染症 第45週 (2006.11.6 ~ 11.12)

類 型	二類感染症				三類	四類感染症															五類感染症																					
	疾病名	(2)コレラ	(3)細菌性赤痢	(5)腸チフス		(6)パラチフス	(1)腸管出血性大腸菌感染症	(1)E型肝炎	(2)ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	(3)A型肝炎	(4)エキノコックス症	(6)オウム病	(8)Q熱	(11)コクシジオイデス症	(15)つつが虫病	(16)デング熱	(18)日本紅斑熱	(19)日本脳炎	(22)ブルセラ症	(23)発しんチフス	(24)ボツリヌス症	(25)マラリア	(26)野兔病	(27)ライム病	(29)レジオネラ症	(30)レプトスピラ症	(1)アメーバ赤痢	(2)ウイルス性肝炎 (E型及びA型肝炎を除く)	(3)急性脳炎	(4)クリプトスポリジウム症	(5)クロイツフェルト・ヤコブ病	(6)劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(7)後天性免疫不全症候群	(8)ジアルジア症	(9)髄膜炎菌性髄膜炎	(10)先天性風しん症候群	(11)梅毒	(12)破傷風	(13)黄色ブドウ球菌感染症	(14)バンコマイシン耐性腸球菌感染症		
第45週報告数	全 国		5	2		35	1						15		1										4	3	8	7		2	1	12	1			6		2				
	四 国	愛 媛 県																																								
		香 川 県																																								
		徳 島 県					2																																			
	ブ ロ ッ ク 別	北 海 道					3																			2																
		東 北 関 東					3							6												1	1						1									
		甲 信 越 北 陸		2	1		7							5												1	1					9	1				5			2		
		東 海 近 畿					3	1						3												1	1											1				
		中 国 四 国					4																			2	2	3														
		九 州 沖 縄			1		5							1													1	1					1									
週 推 移	全 国		5	2		35	1						15		1									4	3	8	7		2	1	12	1			6			2				
	44週	1	8			66			4				7	2	4								1	1	5	2	3		2	1	9			5								
	43週		8	4		64			1				1	2	2		1							8	6	5			1	2	6	1			10	2						
	42週	1	3			73			4				1	2	1	2							1	8	1	5	3	2		2	1	11	2			6	1		1			
2006年累積数	全 国	46	435	66	22	3575	59		300	18	19	1	2	212	50	41	7	5		2	54		11	439	23	645	246	139	15	150	96	1135	79	12		538	103		63			
	四 国	愛 媛 県		6	2		16			4				1		8									2	4	4	1	1	3		6				3	1					
		香 川 県					15			1		3	1												3	3		1			1	4				12						
		徳 島 県					48			1						1										4			1							3	1					
		高 知 県		2	1		3			3						3	1									2	3	1			3				26	1						
	ブ ロ ッ ク 別	北 海 道		2	2		76	17		13	17				1									2	16	23	4	8	3	7	6	25	1			8	5		2			
		東 北 関 東	2	16			364	2		10	3			115			1		1	4					27	23	20	5		6	4	31		2	34	2		4				
		甲 信 越 北 陸	7	35	3	2	814	16		54	6		2	14	30		1		28		4	129	4	296	55	46	7	41	34	582	41	5	174	30			27					
		東 海 近 畿	5	38	8	3	429	4		38	1	2		11	6	1			4		2	71		75	28	15		17	14	138	3	1	59	8			9					
		中 国 四 国	4	16	3		370	3		38	3	1		13	1	16	2							34		30	27	19	1	19	7	39	4			64	14		4			
九 州 沖 縄		4	36	4		660	6		27				15	5	16	5							3	1	30	15	30	25	18		19	3	54	7	2		110	29		5		

・医療機関での診断日をもとに集計。集計日以降の報告数は、次週以降の累積に反映されます。

(2006.11.16集計)